

インデックスファンドTOPIX (日本株式) <愛称 DC TOPIX>

追加型投信／国内／株式／インデックス型

交付運用報告書

第17期 (決算日2018年2月13日)

作成対象期間 (2017年2月14日～2018年2月13日)

第17期末 (2018年2月13日)	
基準価額	18,920円
純資産総額	15,717百万円
第17期	
騰落率	12.0%
分配金 (税込み) 合計	10円

(注) 騰落率は分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書 (全体版) に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書 (全体版) に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書 (全体版) は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書 (全体版) の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書 (全体版) は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「インデックスファンドTOPIX (日本株式)」は、2018年2月13日に第17期の決算を行ないました。

当ファンドは、わが国の株式市場全体の動きをとらえることを目標に、東証株価指数に連動する投資成果をめざして運用を行なっておりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

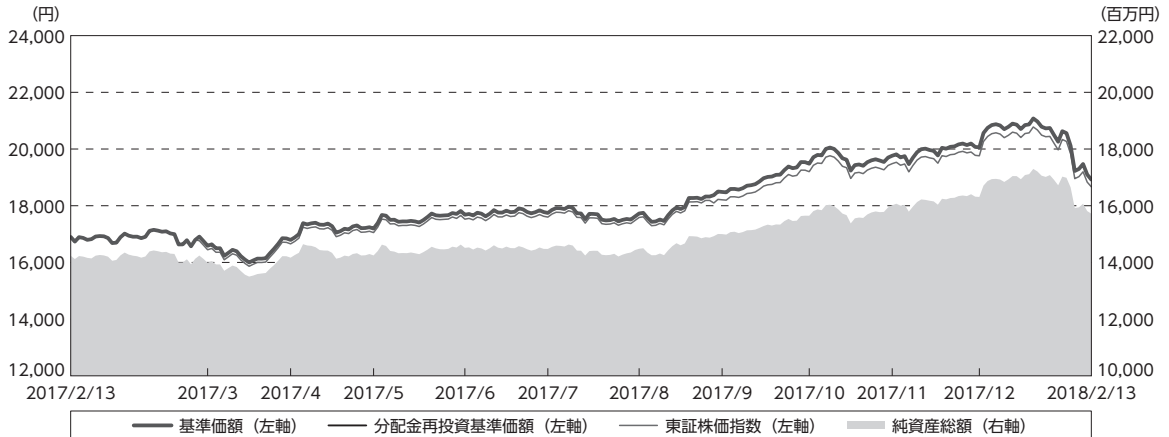
コールセンター 電話番号: 0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2017年2月14日～2018年2月13日)



期首：16,898円

期末：18,920円 (既払分配金 (税込み)：10円)

騰落率：12.0% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および東証株価指数は、期首 (2017年2月13日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 東証株価指数は当ファンドのベンチマークです。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、わが国の株式市場全体の動きをとらえることを目標に、東証株価指数に連動する投資成果をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・フランス大統領選挙において独立系中道候補が当選し、欧州連合 (EU) の結束が強まると期待されたこと。
- ・衆議院選挙における与党の勝利を受けて政府の経済成長戦略の継続見通しが強まったこと。
- ・米国において連邦法人税率の引き下げを含む税制改革の実現が確実となり景気の押し上げに期待が高まったこと。

＜値下がり要因＞

- ・米国政権の政策運営に対する不透明感が強まったこと。
- ・シリアや北朝鮮の地政学的リスクが高まったこと。
- ・米国長期金利の急激な上昇を警戒した米国株式の大幅な下落を受けて、日本株式に対する投資家のリスク回避姿勢が強まったこと。

1万口当たりの費用明細

(2017年2月14日～2018年2月13日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	122	0.670	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(43)	(0.238)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(69)	(0.378)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	(10)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.000	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（株式）	(0)	(0.000)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（新株予約権証券）	(0)	(0.000)	
（先物・オプション）	(0)	(0.000)	
(c) その他費用	1	0.005	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	123	0.675	
期中の平均基準価額は、18,205円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

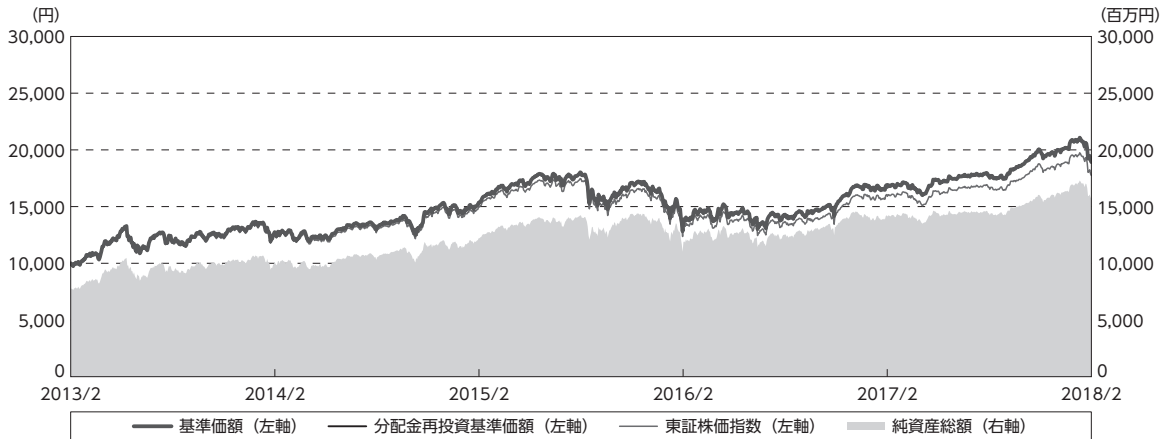
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2013年2月12日～2018年2月13日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および東証株価指数は、2013年2月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2013年2月12日 決算日	2014年2月12日 決算日	2015年2月12日 決算日	2016年2月12日 決算日	2017年2月13日 決算日	2018年2月13日 決算日
基準価額 (円)	10,007	12,751	15,348	12,817	16,898	18,920
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	10	10	10	10	10
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	27.5	20.4	△ 16.4	31.9	12.0
東証株価指数騰落率 (%)	—	25.9	18.8	△ 17.5	29.9	10.5
純資産総額 (百万円)	7,814	10,096	12,210	11,012	14,234	15,717

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 東証株価指数は当ファンドのベンチマークです。

投資環境

(2017年2月14日～2018年2月13日)

(株式市況)

国内株式市場では、東証株価指数（TOPIX）は、期間の初めと比べて上昇しました。

期間の初めから2017年4月中旬にかけては、日銀の上場投資信託（ETF）買入れによる需給改善への期待などが株価の下支えとなったものの、米国政権の政策運営に対する不透明感が強まったことや、シリアや北朝鮮の地政学的リスクが高まったことなどをを受けて、TOPIXは下落しました。4月下旬から2018年1月中旬にかけては、北朝鮮情勢の緊迫化により投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどが株価の重しとなったものの、フランス大統領選挙において独立系中道候補が当選しEUの結束が強まると期待されたことや、良好な経済指標の発表などをを受けて国内景気の回復基調が示されたこと、衆議院選挙における与党の勝利を受けて政府の経済成長戦略の継続見通しが強まったこと、米国において連邦法人税率の引き下げを含む税制改革の実現が確実となり景気の押し上げに期待が高まったことなどから、TOPIXは上昇しました。1月下旬から期間末にかけては、米国財務長官によるアメリカドル安の容認発言などを契機とする円高／アメリカドル安の進行が懸念されたことや、米国長期金利の急激な上昇を警戒した米国株式の大幅な下落を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどを背景に、TOPIXは下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年2月14日～2018年2月13日)

(当ファンド)

当ファンドは、「インデックス マザーファンド TOPIX」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

(インデックス マザーファンド TOPIX)

原則として「バーラ日本株式モデル」を使用して構築したポートフォリオにより、株式先物取引を含めた実質の株式組入比率を高位に保ち、東証株価指数（TOPIX）との連動をめざす運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年2月14日～2018年2月13日)

期間中における基準価額は、12.0%（分配金再投資ベース）の値上がりとなり、ベンチマークである「東証株価指数」の上昇率10.5%を概ね1.6%上回りました。

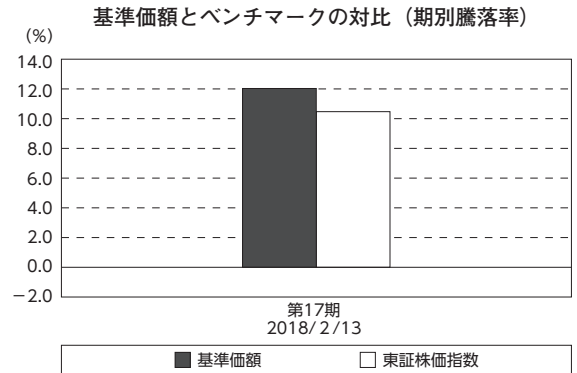
ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

＜プラス要因＞

- ・株式配当金を受取ったこと。

＜マイナス要因＞

- ・売買委託手数料などの諸費用を支払ったこと。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 東証株価指数は当ファンドのベンチマークです。

分配金

(2017年2月14日～2018年2月13日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充たなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第17期
	2017年2月14日 ～2018年2月13日
当期分配金	10
(対基準価額比率)	0.053%
当期の収益	10
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	13,927

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「インデックス マザーファンド TOP I X」 受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

(インデックス マザーファンド TOP I X)

引き続き、原則として「バーラ日本株式モデル」を利用して一定期間ごとにポートフォリオの見直しなどを行なうとともに、株式先物取引も含めた実質の株式組入比率を高位に保ち、TOP I Xとの連動性を維持するように努めます。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

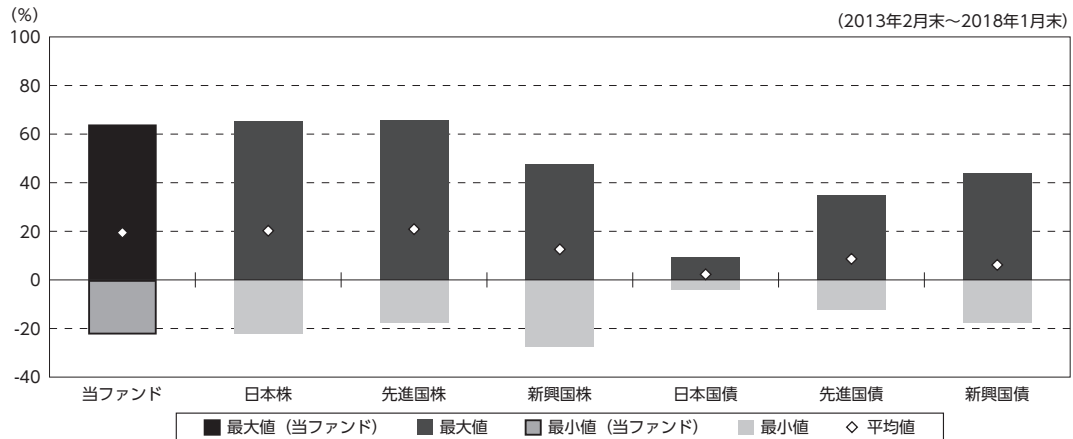
2017年2月14日から2018年2月13日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式／インデックス型	
信託期間	2001年10月31日から原則無期限です。	
運用方針	わが国の株式市場全体の動きをとらえることを目標に、東証株価指数に連動する投資成果をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	インデックスファンド TOP I X (日本株式)	「インデックス マザーファンド TOP I X」 受益証券を主要投資対象とします。
	インデックス マザーファンド TOP I X	東京証券取引所第一部に上場されている株式を主要投資対象とします。
運用方法	主として、「インデックス マザーファンド TOP I X」 受益証券への投資を通じて、東京証券取引所第一部に上場されている株式に投資を行ない、日本株式市場全体の動きをとらえ、TOPIX（東証株価指数）の動きに連動する投資成果をめざして運用を行ないます。原則として「バーラ日本株式モデル」にしたがい、ポートフォリオ管理を行ないます。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	64.0	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△22.5	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	19.4	20.2	20.9	12.6	2.3	8.7	6.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2013年2月から2018年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2018年2月13日現在)

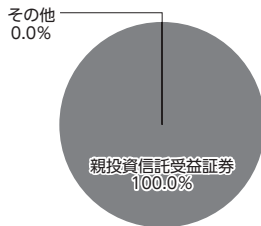
○組入上位ファンド

銘柄名	第17期末
インデックス マザーファンド TOPIX	100.0%
組入銘柄数	1銘柄

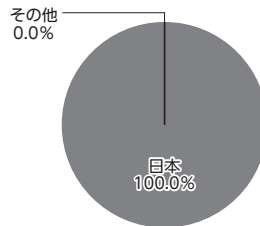
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

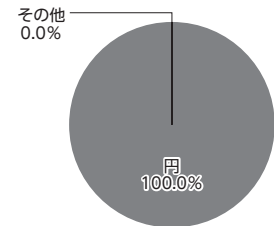
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

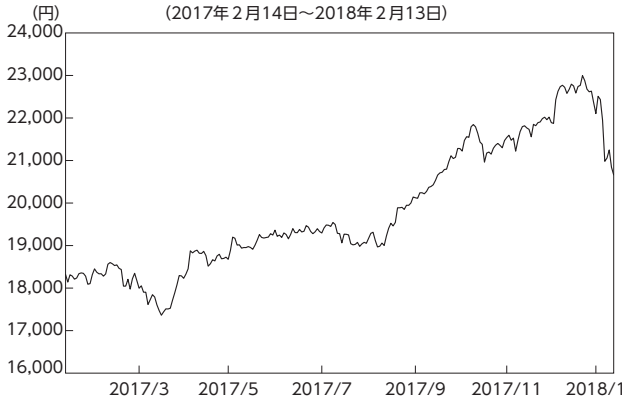
項目	第17期末
	2018年2月13日
純資産総額	15,717,490,475円
受益権総口数	8,307,191,606口
1万口当たり基準価額	18,920円

(注) 期中における追加設定元本額は2,162,325,063円、同解約元本額は2,279,045,732円です。

組入上位ファンドの概要

インデックス マザーファンド TOPIX

【基準価額の推移】



【1万円当たりの費用明細】

(2017年2月14日～2018年2月13日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株式) (新株予約権証券) (先物・オプション)	0 (0) (0) (0)	0.000 (0.000) (0.000) (0.000)
(b) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合計	0	0.000

期中の平均基準価額は、19,806円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万円当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

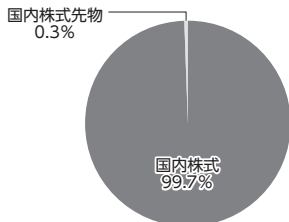
【組入上位10銘柄】

(2018年2月13日現在)

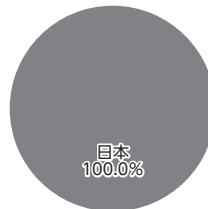
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	トヨタ自動車	輸送用機器	円	日本	3.6
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	円	日本	2.2
3	ソフトバンクグループ	情報・通信業	円	日本	1.6
4	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	円	日本	1.4
5	ソニー	電気機器	円	日本	1.4
6	本田技研工業	輸送用機器	円	日本	1.4
7	日本電信電話	情報・通信業	円	日本	1.3
8	キーエンス	電気機器	円	日本	1.3
9	任天堂	その他製品	円	日本	1.1
10	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	円	日本	1.1
	組入銘柄数			2,029銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
 (注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

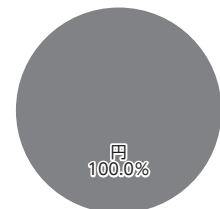
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。
 ※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。